

仙台公演

文楽

人形浄瑠璃

写真:青木信二

昼の部

に 二 人 三 番 叟
にん さん ぼん そう

絵本太功記 夕顔棚の段 / 尼ヶ崎の段
ゆうがおだな だん あまがさき だん

(約2時間30分) ※休憩15分含む

夜の部

ちか 近 頃 河 原 の 達 引
ごろ か わら たて ひき

四条河原の段 / 堀川猿廻しの段
しじょうかわら だん ほりかわさるまわ だん

(約2時間20分) ※休憩15分含む

2024年 **10月15日(火)** **東京エレクトロンホール宮城**

【昼の部】14:30開演(14:00開場) 【夜の部】18:30開演(18:00開場)

入場料(各税込・昼夜とも) **全席指定**

S席 ¥5,000 A席 ¥4,000 (各税込)
※未就学児童の入場不可

- ◆主催 / **tbc東北放送**・(公財)東北放送文化事業団・(公財)仙台市市民文化事業団・(公財)文楽協会
- ◆助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))・独立行政法人日本芸術文化振興会・朝日新聞文化財団

◆プレイガイド / ローソンチケット(Lコード:22928)・チケットぴあ(Pコード:525-788)・イープラス・藤崎・東京エレクトロンホール宮城プレイガイド・仙台市市民文化事業団(日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21)・河北チケットセンター(022-211-1189 平日10:00~14:00)・tbcホームページ

お問い合わせ **tbc東北放送** 事業部 TEL.022-714-1022

チケット発売開始:6月7日(金) 10:00~

配役表

夜の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本 聖太夫

二人三番叟

(人形役廻)

三番叟 豊竹 亘太夫
三番叟 竹本 碩太夫
三番叟 豊竹 薫太夫
三番叟 豊竹 清二 公方郎

鶴澤 清二 公方郎
鶴澤 清二 公方郎

絵本太功記

三番叟 豊竹 亘太夫
三番叟 竹本 碩太夫
三番叟 豊竹 薫太夫
三番叟 豊竹 清二 公方郎

豊竹 希太夫
鶴澤 清 旭

夕顔棚の段

桐竹 勘 譚
桐竹 勘 譚

尼ヶ崎の段

豊竹 呂勢 太夫
鶴澤 清 治

切 豊竹 若太夫
鶴澤 清 介

囃子 望月太明藏社中

夜の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 薫太夫

近頃河原の達引

伝兵衛 豊竹 睦太夫
官左衛門 竹本 小住太夫
八勘 竹本 聖太夫
久勘 竹本 碩太夫

仲買勘藏 吉田 勘市
井筒屋伝兵衛 吉田 玉志
廻しの久八 吉田 翔

野澤 勝平
廻吉娘おつる 桐竹 勘次郎
与次郎の母 吉田 鑓一郎

切 竹本 千歳 太夫
豊澤 富助

切 竹本 鏡 太夫
竹澤 宗助

囃子 望月太明藏社中

昼の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本 聖太夫

二人三番叟

(人形役廻)

三番叟 豊竹 亘太夫
三番叟 竹本 碩太夫
三番叟 豊竹 薫太夫
三番叟 豊竹 清二 公方郎

鶴澤 清二 公方郎
鶴澤 清二 公方郎

絵本太功記

三番叟 豊竹 亘太夫
三番叟 竹本 碩太夫
三番叟 豊竹 薫太夫
三番叟 豊竹 清二 公方郎

豊竹 希太夫
鶴澤 清 旭

夕顔棚の段

桐竹 勘 譚
桐竹 勘 譚

尼ヶ崎の段

豊竹 呂勢 太夫
鶴澤 清 治

切 豊竹 若太夫
鶴澤 清 介

囃子 望月太明藏社中

二人三番叟

能で特に神聖視される『翁』を義太夫節に移し、慶事に上演される『寿式三番叟』。その中から二人の三番叟の舞を独立させました。義太夫節ならではの力強い響き。人形躍動的な舞。足遣いの踏む足拍子と三番叟が振る鈴の音も心地よい熱気あふれる舞台です。

絵本太功記

明智光秀が京都の本能寺に宿泊中の織田信長を滅ぼした『本能寺の変』(1582)を題材とする時代物で、寛政11年(1799)大坂の道頓堀若太夫芝居で初演。当時刊行中の読本『絵本太功記』の人気を受けて、近松やなきはかが合作し発端に、1日を1段として、光秀が謀反を決意する6月1日から命を落すとす13日までの13段が続く構成となっています。

夕顔棚の段

忠臣光秀は、鬼の再来と恐れられる主君春長の悪逆を諫めて、座重なる屈辱的な仕打ちを受け、6月2日、ついに本能寺を襲撃。光秀にとっては万民を救ったための天謀でしたが、母つきは、主殺しなど断じて許せず、6日、逆賊との同居は汚らわしいと、ひとり京を去り、尼ヶ崎へ。

尼ヶ崎の段

謀反を知り、急遽備中から軍勢を率いて都と引き返す久吉。尼ヶ崎の近くで待ち受ける光秀勢。10日さきのもとを訪れたのは、光秀の妻操と息子十次郎、その許嫁の初菊。そして、宿を乞う旅僧も。その正体を久吉と察し、様子をうかがう光秀に気づく老母。

近頃河原の達引

京二条河原での中心(1702)で知られたおしゆん、伝兵衛に四条河原での別傷沙汰と、貧しい猿廻しが親孝行で褒賞されたことを絡めたとされる三巻の世話物で、眼目は中巻の巻の堀川猿廻し。気はやさしくて應病者文字は読めなくとも誠実に生きる猿廻しと与次郎を中心に、その日暮らしの貧しさの中、互いに思いやる家族と、その別れを描いています。天明2年(1782)、江戸の外記座で初演され、好評を博したこの段は大坂で上演されたある時代の猿廻しのくだりをもとにしたものですが、作者成立等、作品全体についての確かなことはよくわかりません。

堀川猿廻しの段

大名の御用を勤める伝兵衛は、相思相愛の祇園の遊女おしゆんに構恋した出入先の侍を殺してしまいお尋ね者だ。

堀川猿廻しの段

おしゆんの尺猿廻しと与次郎は、目の見えない病身の老母を大切に世話する孝行息子。伝兵衛との関係で店からひそかに実家に戻された妹のことも、心配でなりません。母もまた同じ思い。伝兵衛が中心に来たら…。二人はおしゆんを死なせまいと、伝兵衛の難縁状を書かせ、安心。

堀川猿廻しの段

その夜、現れた伝兵衛に妹の手紙を突きつける与次郎。ところが、それは母と兄に宛てた書置きでした。あくまでも伝兵衛と死ぬ覚悟のおしゆん。残された家族の嘆きを思い、一人で死のうとする伝兵衛。けれども、大事な夫を見捨てては、女が立たないとおしゆんは聞き入れません。

堀川猿廻しの段

その思いに心動かされ、母は娘を伝兵衛と行かせることに。与次郎はじめて猿廻しで二人を送り出すのでした。

堀川猿廻しの段

「そりや聞えませぬ伝兵衛さん」に始まるおしゆんのクドキや、悲しみの漂う猿廻し(華やかな旋律に乗せて、人形遣いが左右の手で体づく獲を運びます)で有名、人気演目です。

●字彙表記が異なります。席にちては字彙を見くらべ場合がござりますので、あらかじめご了承ください。

●出演者の名やその他を得ない前により、役名を要して上演する場合はござります。あらかじめご了承ください。

●上演中、客席内の写真撮影・録音・録音・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。また、周りに迷惑の出ないように設定をお願いします。

●劇時は電子タバコの通行などに手洗いや感染症対策にご協力をお願い申し上げます。